

- 問1 日本の農業において、農家の高齢化に対応し生産性を高めるため、農家一戸あたりの耕作面積や飼養頭数を増やしたり自動化技術を導入したりする取り組みを何というか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
1. 農業経営の規模拡大
 2. 農産物の海外輸出促進
 3. 遊休農地の宅地化
 4. 地産地消の推進
- 問2 静岡県の牧之原や、鹿児島県に広がるシラス台地のような地形において、その土地の「水はけの良さ」という特性を活かして盛んに行われている農業はどれですか。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 果樹（ミカン）の栽培
 2. 野菜の促成栽培
 3. 茶の栽培
 4. 稲作（水稲栽培）
- 問3 交通網の整備が観光に与える影響について、ある観光地の統計では「時間距離の短縮」に伴い、自家用車での利用客が増え、宿泊客よりも日帰り観光客の増加が顕著に見られました。この現象について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 交通網の整備は観光客の利便性を高めるが、物理的な距離そのものを短縮させるため、移動コストが大幅に上昇する。
 2. 鉄道の高速化が進むと、移動時間が短縮されるため、比例して宿泊客の数も必ず増加する。
 3. 高速道路などの道路網が拡充されると、都市部から短時間での往復が可能になり、日帰り観光が容易になる。
 4. 空港から観光地までのアクセス道路が整備されると、自家用車よりもレンタカーやバスの利用が一般的になる。
- 問4 近年の日本における豚肉の供給状況について、国内の生産動向と輸入状況、および消費者の意識の変化を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 国内生産量は一定に保たれているが輸入量が急激に減少しており、消費者の意識調査では国産ブランドへのこだわりがほとんど見られなくなっている。
 2. 国内生産量と輸入量の双方が減少傾向にあり、消費者の意識調査では産地にこだわらず価格の安さを最も重視する層が増えている。
 3. 国内生産量が大幅に増加して輸入量を上回っており、消費者の意識調査では安価な輸入品を優先的に選ぶ層が主流となっている。
 4. 国内生産量が伸び悩む一方で輸入量が増加傾向にあり、消費者の意識調査では価格が割高であっても国産品を選ぶ層が半数を超えている。
- 問5 東京や大阪、名古屋といった人口が集中する大消費地の周辺地域で行われる、小松菜やホウレンソウなどの野菜を中心とした農業について、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2015年 山口県公立入試 類似)
1. 輸送距離の短さを活かし、収穫したばかりの新鮮な農作物を低い輸送コストで市場に供給できる。
 2. ビニールハウスや温室などの施設を利用して、他の産地よりも出荷時期を早めることで高い利益を得る。
 3. 広大な農地を活かして、トラクターなどの大型機械を使い、主に米や麦などの穀物を大規模に生産する。
 4. 夏でも涼しい高原の気候を利用して、他の産地が品不足になる時期にレタスやキャベツを出荷する。
- 問6 1980年代後半以降、日本の製造業では円高への対応や生産コストの削減を目的として、多くの企業が生産拠点を海外へ移転させました。これにともない、国内の工場が閉鎖されて雇用が失われたり、地域の産業が衰退したりする問題が生じています。このような現象を何と呼びますか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 情報通信技術の普及
 2. 産業の空洞化
 3. 地場産業の活性化
 4. ドーナツ化現象
- 問7 瀬戸内工業地域における工業の特色と、その背景について説明した文として最も適切なものを選択肢から選びなさい。 (2019年 山口県公立入試 類似)
1. 機械工業の割合が全体の約7割近くに達しており、特に内陸部での自動車生産が極めて盛んである。
 2. 化学工業の割合が約20%と高く、原料の輸入に便利な臨海部に石油化学コンビナートが形成されている。
 3. 消費地に近い利点を生かし、食料品工業や繊維工業などの軽工業が製造品出荷額の半分以上を占めている。
 4. 古くから官営の製鉄所を中心に発展したため、現在も金属工業の割合が過半数を超えている。
- 問8 発電方法ごとの二酸化炭素排出量を比較したデータにおいて、石炭や石油を用いた火力発電と比べ、太陽光や風力などの再生可能エネルギーは排出量が極めて少ないという特徴があります。このような特徴を持つ再生可能エネルギーの導入を拡大する主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 天候に左右されず、常に一定の電力を安定的に供給するため
 2. 他の発電方法に比べて、発電にかかる費用を大幅に安く抑えるため
 3. 地球温暖化の進行を抑制し、環境への負荷を軽減するため
 4. 資源の枯渇を避けるために、火力発電の燃焼効率を向上させるため
- 問9 産業分類において、自然界から直接資源を採取する第1次産業と、商業やサービス業を中心とする第3次産業の中間に位置づけられる区分があります。この区分に分類される主な業種の組み合わせとして、適切なものはどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 医療・福祉
 2. 卸売業・小売業
 3. 農業・漁業
 4. 製造業・建設業
- 問10 1950年代半ばには5,000人以上の人口を抱えていたある村において、約25年間で人口が4,000人程度まで急激に減少した事例のように、人口の減少によって地域社会を維持する基盤が弱まり、産業の衰退や生活機能の低下を招いている状態を何といいますか。 (2018年 広島県公立入試 類似)
1. 持続可能な開発
 2. 過疎化
 3. 過密化
 4. ドーナツ化現象
- 問11 1980年代以降、日本の経済状況において「産業の空洞化」が深刻な問題となった要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
1. 貿易摩擦や円高への対応として、企業が製造拠点を海外へ移転させたため。
 2. 不況への対策として、政府が海外製品の輸入を大幅に拡大させたため。
 3. 円安が進んだことで輸出が急増し、国内の労働力が不足したため。
 4. 国内の消費を拡大させるため、政府が海外企業の工場を積極的に誘致したため
- 問12 日本はエネルギー資源の多くを中東地域からの輸入に依存しています。産地であるペルシヤ湾沿岸から日本まで、大量の原油を効率的に輸送するために利用されている手段は何ですか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 速達性に優れた貨物専用の大型航空機
 2. 鉄道を利用した大陸横断輸送
 3. 海底を通り日本まで直接つながっているパイプライン
 4. 液体を大量に積み込める大型のタンカー
- 問13 ある4つの府県の統計を比較した際、大阪府は「昼夜間人口比率」が100%を大きく上回っていました。この統計から読み取れる大阪府の都市構造に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
1. 大阪府は他の府県に比べて夜間の居住環境が優れているため、昼間に外へ働きに出る人よりも、夜間に帰宅して働く人の方が圧倒的に多い。
 2. 大阪府は観光資源が豊富であるため、宿泊を伴わない日帰り観光客が夜間に滞在することで、夜間の人口が昼間の人口を上回っている。
 3. 大阪府では100世帯あたりの乗用車保有台数が非常に多いため、自動車を利用して他県へ働きに出る人が多く、昼間の人口が減少している。
 4. 大阪府内には商業や事務、管理機能が高度に集積しており、兵庫県や奈良県などの周辺府県から、昼間に多くの通勤・通学者が流入している。